

# PPIの副作用

PPI（タケキャブ、タケプロン、ネキシウム等）H<sub>2</sub>受容体拮抗薬（ガスター等）の6か月以上の長期服用は控えること。

## ① 鉄欠乏性貧血／B<sub>12</sub>欠乏性貧血

胃酸分泌を抑制するため。

## ② 認知症

① PPIによって脳内アミロイドβ値が上昇したというマウス実験あり。

② また、B<sub>12</sub>欠乏による認知症もあり得る。

## ③ 骨粗鬆症・骨折

① 胃酸分泌を抑制するためMg、Zn、Ca、Feの吸収不良を来たす。

## ④ 腸管感染症／下痢

① CD腸炎 下痢、腹痛、発熱

PPI服用に加えて、広域スペクトル抗生物質を使用すると、胃酸分泌の抑制により殺菌作用が弱くなった上に、菌交代現象が引き起こされてCD（クロストリジウム・ディフィシル）腸炎をおこし、下痢、腹痛、発熱を来たす。

② Collagenous colitis PPI開始1～2か月で下痢発症

また、PPI投与で慢性の下痢が続く場合には、

膠原線維性大腸炎（Collagenous colitis）も考える。

PPIは大腸のプロトンポンプも阻害し、大腸分泌物の組織やPHが変化し免疫反応が誘導されて、大腸上皮に炎症が起こると考えられている。

内視鏡では大腸粘膜の異常は認められないが病理組織学的に大腸粘膜上皮直下に膠原繊維帯の肥厚を認める（コラーゲンバンド）